

**調査の目的について**

本調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。(実施要領)」です。

本校では、この趣旨に基づき、常に教育活動の改善を図り、学習指導の充実に努めてまいります。本「調査結果」により保護者並びに地域住民の皆様にも、結果の概要をご理解いただき、今後も引き続き本校に対してご協力とご支援をいただきたくお願い申し上げます。

なお、この調査により測定できるのは、あくまでも学力の特定の一部であり、この調査から得られる情報で、お子様や本校児童の学力のすべてを評価されるものではないことをご理解賜りますようお願い申し上げます。

**【本校の概要】**

- 実施月日 平成29年 4月18日 (火)  
○実施学年 第6学年 (63人実施)

国語A(知識)全国値より若干下回る  
国語B(活用)全国値より上回る

算数A(知識)全国値より上回る  
算数B(活用)全国値レベル

**〈 学力調査 〉**

国語Aが若干全国値よりも下回っていましたが、その他は全国値レベルもしくはそれを上回る正答率でした。知識とともに活用力もついてきており、児童の学力向上が図られてきていることが分かります。

	平均正答率 (%)	
	本校	全国
国語A	74	74.8
国語B	60	57.5
算数A	79	78.6
算数B	46	45.9

**■学校の取組**

○朝の活動時間(8:25~8:40)に基礎学力の定着を図っています

基礎学力の定着をねらいとして、週2回、朝の活動時間に取り組んでいます。全校で継続して取り組んでいるので、子供たちも時間になったらすぐに問題を解き始めています。

- 月曜日 国語：言葉サプリ(漢字やことわざなど語彙力を高める問題)  
水曜日 算数：算数トレーニング(計算問題や文章問題)



れているかを今後気にしていきたいところです。

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
自分には、よいところがある と思いますか	12	29	12	10
	19.0	46.0	19.0	15.9
	38.6	39.3	14.9	7.0

※自己肯定感において「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の児童は本校6年生の半数以上いることが分かります。自己肯定感が高い児童ほど正答率が高い傾向にあるといわれていますので、「学校・家庭・地域」の連携を図り、大人たちが一人一人の子供たちの良さを引き出していくことが大切です。また仲間の良いところを見つける力も育てていくことが大切です。

	当てはまる	どちらかといえば、 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
友達の前で自分の考えや意見を 発表することは得意ですか	5	23	22	13
	7.9	36.5	34.9	20.6
	21.6	30.6	32.3	15.4
友達と話し合うとき、友達の 話や意見を最後まで聞くこと ができますか	34	27	2	0
	54.0	42.9	3.2	0.0
	63.9	31.3	4.0	0.8
友達と話し合うとき、友達の考えを 受け止めて、自分の考えを持つこと ができていますか	31	25	7	0
	49.2	39.7	11.1	0.0
	42.5	43.0	12.3	2.1
授業で学んだことを、ほかの 学習や普段の生活に生かして いますか	24	32	7	0
	38.1	50.8	11.1	0.0
	38.2	44.6	14.0	3.0
学級会などの話合いの活動で、自分とは異 なる意見や少数意見のよさを生かしたり、 折り合いをつけたりして話し合い、意見を まとめていますか	9	27	21	6
	14.3	42.9	33.3	9.5
	13.9	36.4	35.9	13.6

※友達の話や意見を最後まで聞き、自分の考えをもつことはできています。相手に対して声に出して発信する力、自分の考えとは異なる発言をしていることを理解しようとする力をさらにつけていくことで「主体的・対話的で深い学び」につながると考えられます。また、授業で学んだことを他教科や普段の生活に生かしている児童が多いことも分かります、今後、子供たちに「生きる力」が身に付いていくよう、「学校・家庭・地域」が一体となって支援してまいりましょう。

いじめは、どんな理由があっ てもいけないことだと思いま すか	55	8	0	0
	87.3	12.7	0.0	0.0
	81.2	14.9	2.7	1.1

※「いじめをしてはぜったいにいけない」という意識が子供たちに身に付いています。ふざけやからかいなどもいじめにつながることもふくめ、相手を思いやる気持ちをさらに育てていくことが大切です。